

別紙2

欄内に収まらないご意見等

No. 3

(意見内容の欄)

大いに賛成です。今までの報道ではF-REIなる特殊法人機構が設立されたということだけで、町民・県民はその具体的中身についてはほとんど知っていない状況にあります。まして今回の構想は10年間、範囲を国際研究学園都市にパブリックコメントを絞っていることが有効であると思います。しかし、この機構の趣旨からは浪江町だけに限った内容ではうまく行かないと思います。やはり双葉郡を中心とした近隣市町村・県との連携協議が必要かと考えます。また、このような施設設備を有し、円滑に機能的にしている国内のみならず世界を視野に研修・研究していくようにして取りあえず10年間のビジョンを設定し、町民のみならず県民に広報していく必要があります。

これからの新しい教育はどうあるべきかの徹底した研究と知見が必要です。

教育は国家100年の計であります。双葉郡北部には高等教育の機関がありません。現在の状況下では高等学校どころでなく、川内・大熊・双葉・葛尾のように小中学校も一緒のような現状です。しかし、この原子力災害による復興を好機として県内各地からも志願者があるような高等学校が必要なのです。そのためにも県や浜通りとも連携し、ただ単に浪江町だけの高校ということだけではなく、しかも現存するなみえ創成・小中学校の在り方も同時進行で研究すべきであります。その意味でも、いろいろな大学が進出してきて町との産業・復興推進ができるような波及効果が出てくるようになり、コミュニティが形成され、少子化を克服し、人材育成ができるような学校作り・町作りが学園都市の明るい未来に繋がるのではないのでしょうか。

まずは、同時進行で廃炉が進み、産業・仕事の雇用が促進するためにも、浪江町や双葉郡に住むとどんなメリットがあるのかを示せば良いのではと考えます。あまりに東京にばかりの一極集中の時代を終わらせなくてはなりません。国会議員の質の向上は絶対に必要です。

全体的にあまり欲張りすぎても計画倒れになりますので、できることから5年・10年・15年と着実に実践して行ければ良いのではと思います。

このパブリックコメントもあまりに焦点が大きすぎてどこにスポットをあてれば良いのか難しいです。

No. 62

(理由の欄)

研究者(留学生ではない)は、キャリアアップのチャンスがあれば躊躇なく研究場所を変える。自分の思い通りの研究をするには教授クラスのポジションが必要だが、教授になれるのは一握りに過ぎず、階段を上るレースに敗れた者は甘んじて階段の下の方に留まるか、もう少し楽に階段を上れる場所(人気のない研究機関)に移ることになる。上を目指す研究者は、優れた論文を書くために常に上のレベルを目指すのである。逆に、人気のない研究機関は競争に敗れた者が流れ着く先なのである。気鋭の研究者は何を目指してやって来るのか。例えば兵庫県の三市町にまたがる播磨科学公園都市、岐阜県飛騨市神岡町の東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設、京都府京都市の京都大学iPS細胞研究所(CiRA)では、それぞれ世界最高性能の放射光施設(Spring-8、公益財団法人高輝度光科学研究センター(JASRI)が運営)、世界最大の水チェレンコフ宇宙素粒子観測装置(スーパーカミオカンデ)、山中伸弥先生がノーベル賞を受賞したiPS細胞という、十分説得力のある「ネタ」がある。翻って浜通りを見た場合、福島ロボットテストフィールド(公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構が運営)や福島水素エネルギー研究フィールド(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構の委託事業であり恒久的な施設ではない)には、全国・世界からここを目指して研究者がやって来るようなネタがあるだろうか。むしろ、檜葉町にある日本原子力研究開発機構檜葉遠隔技術開発センターは、特殊性が高く他にない施設であることから、研究者が集まる可能性が高いかもしれない。F-REIの研究分野は5つ(ロボット、農林水産業、エネルギー、放射線科学・創薬医療・放射線の産業利用、原子力災害に関するデータや知見の集積・発信)に限られている。それらの分野で世界を驚かすような研究成果が生まれるためには、立地自治体は、研究者の目から見ても「説得力があり、差別化されている」と思える“目標”や“方向性”を示す必要があるだろう。

No. 87

(意見内容の欄)

・日常生活のサポート

◎公営集合住宅(研究者の方が入るところ、以下同じ)で、高速インターネット回線(光)が使えるようにする。

(研究者に限らず、いまどきの生活必需品)

◎公営集合住宅の1階に、早朝から深夜まで利用できるコンビニを誘致する。

(都会での便利な暮らしに慣れている人には、このインフラが最重要かも!あと、予定外の残業発生→夕飯に食べるものが、カップ麺も何もない、という状況になると、仕事をやっていること自体が悲しくなるので…)

-コンビニには、指定ゴミ袋を置いて下さい。

(平日はアパートとF-REIの往復のみ、週末(金曜夕方~日曜深夜)は自分の家に帰るので、イオンで指定ゴミ袋を買うタ

イメージがない、とかありがちなので)

○F-REI 敷地内(付近)に、早朝から深夜まで利用できるコンビニを誘致する。

(理由は同上だけれど、健康面を考えると、残業は適当なところで切り上げて、公営集合住宅にあるコンビニを使って欲しい)

◎公営集合住宅に、ネット通販の荷物を受け取れる環境を整備する。

(宅配BOXの配置、大物荷物(液晶テレビ!?)や書き留めなどを受け取ってもらえる管理人室の設置など。ネット通販を気兼ねなく利用できる環境があれば、買い物に関する不満(近くに××を売っている店がない、など)は激減します!)

◎F-REI 周辺と、F-REI⇄公営集合住宅の道路(歩道)に歩道柵(イノシシ避け)と街路灯を整備。

(研究者の身体の安全は最優先に、環境の不備が原因でケガなどされて、「F-REI はダメだ(浪江町の生活環境は三流だ)」などという悪い噂が立っては困ります)

No. 91

(意見内容の欄)

・町内の安価な移動手段のサポート

現在、飲食店や銀行が国道6号沿いに集中しているが、F-REI からは距離があり、徒歩でお昼休みのうちに用事を済ませるのが難しそうなので、その対策として、

◎F-REI にカーシェアリングサービスを契約してもらう。

(F-REI にある程度の台数をまとめて契約してもらえば、F-REI とリース会社の双方にメリットがある?車種には、電気自動車、水素自動車など、先進性をアピールできるものを選べば、F-REI や浪江町のイメージアップにもつながり、なお良い)

○町内移動向けの安価なオンデマンド交通の導入

(昼休みや夕食時の行き帰り、飲み屋への行き(帰りの足はタクシーを使ってもらう!)用に)

-発着できる範囲は、国道114号~国道6号から東に200m程度~イオン南の小川~常磐線の線路で囲まれた範囲に加えてF-REI 敷地周辺程度に限定、利用時間も朝から夕方のみでOK。

(タクシーとの役割の棲み分けに配慮し、中・長距離、早朝、夜はタクシーを使ってもらうよう誘導する)]

-電子決済可にすると、利用率が上がるかも

(小銭のやりとりは面倒、電子決済だと、財布のヒモが緩くなる?)

○警察署前通りの道路の拡張

(折角、浪江駅前に賑わいの場を創出するなら、国道6号から人の流れを呼び込むことを目的に。国道114号と合わせて考えれば、行き止まり感のない、回遊性のある街作りを実現できそう)

-ついでに、イオン西側の建物を、駐車場に変えてもらえると…。

(イオンの駐車場から出るとき、左側の見通しが悪いので。あと、駐車マスを常に占有している車が増えてきたので、町に住む人が増えるのならば、駐車場を広げてもいいかも)

○駐輪場の整備(とりあえず、町役場、イオン、東邦銀行前?)

(町内の移動に自転車を使いたいというニーズが出てくれば…)

-本気で自転車での移動をメインに据えようとする、道路(歩道)幅を拡張するとか、自転車の交通を裏通りに誘導するとか、結構大掛かりになるけれど。

No. 117

(理由の欄)

1. 町が目指すのは、浪江駅を中心とする東側、西側地域の開発とF-REI との連携であり、今後の町の構造はすでに計画済みと思われるが、やはり道路網の整備と新道路開発が一番重要であり、最優先事項と思われる。

2. 特に新設する常磐線の上を通す陸橋道路とその周辺道路の整備と思われるが、最低でも道路幅は6~8mの道路の新設が必要であり、道路が出来て、初めて東・西側の通行が可能となり、更には、建物が建ち、車の交通量も多くなり、駅周辺が栄えます。

3. 現在までは6号線から東側の放射線が低い幾世橋方面(創成小・中学校周辺)の住宅街作りでしたが、現町長の力で駅西側川添地区にF-REI の誘致が決まり、浪江町は大きく180度変換して、町構造の展望を変え、復興計画第三次が稼働しています。

4. 震災・原発事故から13年目になろうとしています。帰還者は少ないですが、浪江町には拡大な[拡大な?役場注]土地があり、F-REI が出来る事から、浪江駅を中心に西側はF-REI、東側は旧来の住宅・商店街・役場・官公庁と形成されると思いますが、西側には大堀相馬焼、いこいの村、鮭ふ化施設建設中、まだ未除染区域である高瀬川溪谷、東側には請戸漁港等があり、東西を結ぶアクセス道路が必要だと思います。

5. 私の要望

1)新道路は幅6~8mの新道路作り

2)F-REI と結ぶ114号線、高速道、県道小高広野線のアクセス道路(幅員を広くする)

3) 町内の道路網の整備

①駅前道路、新町通り(旧国道)等の主要道の拡大

②枝葉の道路拡張（予算があるとは思いますが無理だと思います）（現在の住宅街の道路幅員は6mである）

③F-REIのキャンパス内に医療福祉専門学校の誘致

6. 町内に広い道路ができれば、おのずと県外、市町村外の来客が増し、交通の流れも盛んになり、拡大な[広大な？役場注]土地がある事から、用途地域を変え、人口増加を望み、つくば学園都市のミニ版である浪江学園都市が出来ると思います。将来の浪江学園都市になる様にみなさん頑張って下さい。

No. 184

（意見内容の欄）

パブリックコメントとしては、少々長い文章となりますがご容赦下さい。

老人と作業員のこの町には残念ながら未来を担う若者の姿はない。

中学を出ると（卒業すると）浪江を去り再び足を踏み入れることは多分ない。

「大志を抱く」「生命の輝きを放つ」は青年期特有の精神であり、彼らはこの理想を胸にこの地を旅立つものだ。

しかし若者の姿と賑わいがこの町から消え同時に希望も消え去った。

産業の空洞化ならぬ教育の空洞化が起きているのであろう。

4点を提言したい。

①大学誘致

②双葉高校の復活

③棚塩払い下げ地の今後（J-REIとは少々違うが）

④まとめ

①この町には大学はおろか高校さえない。

J-REIは研究員とその家族に「来ていただく」ものであり「行きたい」とはならない。

研究員は任期付きの身分であり、浪江への引き留めておくためには様々な町独自の支援金が要求されるような気がする。

ところで町議会と役場担当者は合同して国内外の名門大学に誘致を働きかけたのでしょうか？

この町に大学の一部でも誘致することが大事であり、世の中にいくつもある自治体と大学の協定締結など書面上の取り決めは何の役にも立たない。

少なくとも締結での実証確認が数値とし公表されそれが自治体に還元されたというのは聞いたことがない。

ハーバード、オックスフォード、東大、東北大などが浪江へキャンパスの一部でも移すことで決まったら世界的大ニュースになり未来永劫町の誇りになることでしょう。

学歴社会を称賛する訳ではありませんがこの位の大胆なプロジェクトに取り組まないとJ-REI構想も特色のないもので終わってしまう可能性がある。

水素工場、ロボットテストフィールドがよい例である。住民はその内容、研究に全く関心を持たない。

役場と関連企業が大騒ぎをしているだけで、心に響かないものに郷土愛が生まれる訳がないである。

②この地には100年の歴史を誇る県立双葉高校がある。旧制中学開校の時も住民代表が県に陳情を重ね、地域民も寄附を募ってようやく開校にこぎつけたという苦労話が校史に残っている。

当然、郷土の誇り、自慢の種であったようです。

半世紀前でも生徒、先生、父兄が三位一体となり、文武両道の精神を必死に守り、甲子園出場、東大、東北大などの国立大学に幾多の合格者を出していました。

若い世代は平坦な道ばかりを求めてはいけぬ。社会に出れば苦有りの連続にすぐに気が付くから。

今回提案したいのは

(ア)双葉高校の復活

(イ)その募集方法

の2つである。

(ア) 双葉高校を浪江町で再開させるのは不可能でしょうか？

浪江出身のOBが一番多いはずである。

下車駅と校名が違っていても特段の不都合はないでしょう。

全国屈指の公立の名門県立浦和も下車駅は北浦和である。

(イ) 募集枠に福島特例を時限的に導入してはどうか？

戦後の沖縄には「沖縄枠」があり、米国占領下の上位数パーセントの高校生は国費留学生として内地のどの国立大学にも入学できたという。もちろん卒業は保証されてはいない。

これを双葉高校にも導入するのである。

国立大学の理工系（除く医学部）とすれば定員も多いので、問題はないでしょう。

これは大ニュースになり県内、全国からこの地へ生徒が集まることでしょう。

そうして、生徒全員が切磋琢磨して県内ナンバーワンの名門高校に成長すれば、そこに新たな伝統が生まれることでしょう。

もちろん時間はかかるでしょう。

イギリスの思想家カーライルという人はその名著「衣装哲学」の中で形式は内容を決定するといっています。生徒自分自身がいわゆる名門校にいるということが生徒自身をいつの間には成長させるという事もあるのでしょう（実際はそんなにうまくはいかないが）。

復活というのはどん底からの出発なので仕方はありませんが、やり方次第では成功します。

あの名門都立日比谷の復活がいい例です（詳細は省略）。

③棚塩の払い下げ遊休地は昭和 40 年代、原発阻止闘争の歴史の舞台でもあり、地区民尾お墓もあったので問題を複雑にしています。

浪江を離れ、その後の様子を見守っていた私はもしかすると東大、東北大の演習農場もしくは国立大学共用の研修センターを作るのかなと勝手に想像していました。

これなら国内外の留学生を含む多くの若者の国際交流と研修の聖地になるかもしれないと心待ちにしていたのです。

そして、この地に集まった若者の何パーセントかは将来 J-REI を目標にするかもしれないと夢はひろがるばかりでした。

しかし、どうやら牛小屋が出来るといことみたいなので良くて県の農業試験場、県立農業短大かもしれないと想像しています。

④半世紀も前の昭和 40 年後半に学んでいた大学に魯迅（近代中国の大作家）の展示室がありました。

昔のことなので実社会の生活に流されて、すっかり忘れていました。

確かその作品「故郷」の中で、彼はこんな事を書いていました。

もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になる。

双葉高校の 100 年の歴史も J-REI のこれからの歩みも決して平坦なものではないでしょう。

しかし「郷土愛」と「未来への希望」が住民全員の意識の中に生き続けるならば、それが大きな道になるでしょう。

No. 190

（理由の欄）

FREI に関する各目標は、FREI の理念を踏まえたものとしてある程度理解できるが、この（浪江）文化に関するページは、途端に内輪の話的な内容になり、果たしてこれで「多様な主体」と繋がれるのかとても不安だ。せっかく FREI が来たのだから、文化も FREI との協働での事業化を目指す。

ここに記されている「方向性⑧」を見ると、ここから浮かぶものは博物館である。

- ・文化的な資源の発見や保存、活用を通じて、その価値を普及させることによって、地域社会の発展に寄与すること。
- ・資料の保護と文化の保存・継承。
- ・資料の展示、情報の発信と文化の共有。
- ・多世代への学びの提供。
- ・学術的な成果だけでなくそこに住む人々の拠り所を提供し心に豊かさをもたらすこと。

全てが博物館の役割に合致する。しかも博物館法改正によって、従来の事業に加え、これまで行ってきた展示だけでなく、「資源のデジタル化」や「地域の活力向上のため、文化についての理解を深める『文化観光』に取り組む」ようになる。

このことは、FREI が来るメリットを最大限に活用した、浪江町でなければできない、文化版創造的復興であり、これが真の「新たな浪江文化（なみえスタイル）」となるだろう。

双葉郡 8 町村でミュージアムがないのは浪江町だけ。「世界に冠たる創造的復興の中核拠点」としての FREI には相応しくない環境というか、自分の町のことを調べるのに他町の図書館に行かないと資料が揃わないという環境で、果たして FREI が望む「多様な主体」の欲求は満たさせるだろうか。岸田首相も来町後の南相馬市での会見でこう言っている、「優秀な人材を集めるには魅力的なライフスタイルを提案する必要がある」。

一日も早くミュージアムゼロの汚名から脱却しなければならない。

No. 248

（理由の欄）

現在の浪江町の状況を鑑みると、とても、先行きが不透明の上、かつての様に人口が戻ってくると考えにくいです。

そこで「国際リニアコライダー（以下略称「ILC」と称します）」の誘致を提案いたします。

現在、浪江町内では、福島国際研究教育機構（F-REI「エフレイ」）の設立が決まり、今後、放射能関連の研究が行われるの機として、もう一段、ギアを上げ、物理学の最先端研究の誘致及び ILC を浪江地区の阿武隈高地側（大柿ダムから津島地区にかけて）に作る事で関連事業、関連研究機関や関連の大学までを浪江町内に呼び込むことが可能ではないかと考えております。世界の関連研究人だけでも 2000 人の規模になります。しかし、現状 ILC 誘致は、ほぼ岩手県内（北上山地内）と決まりつつありましたが、ILC の建設費が 8 千億円以上（約半分を日本が負担）と莫大なため、国（文科省）が誘致しない等二の足を踏んでいる状態です。

しかし、チャンスはあります。

そして、ILC の建設場所においても、阿武隈高地を挟んで、東西には東北本線と新幹線、常磐線のそれぞれの鉄道、高速道路も東北道と常磐道、そして福島空港や隣県の仙台空港と、4号線と6号線の国道が存在しており、そしてほぼ一つの塊、(地質調査からも大きな岩盤が主な組成で出来ている)としての阿武隈高地の地下は安定して地震に強いと言う岩手県と比較してもかなり有利な立地条件も揃っています。

今現在、津島地区には住んでいる住民も極わずかです。

これ以上の「好条件」のある場所は、日本国内には存在していないと思います。

さらには、エフレイとしてのその研究開発やまちづくり、教育など、その研究成果も含め果たす役割、成果の効果も大きく貢献、期待も出来るはずと思います。

また、先日の新聞報道(1月13日の福島民友の記事)、内掘知事は「世界水準の研究推進に加え、地域の要望に応える拠点としての役割も重要だ。さらなる成長を期待している」と述べ、エフレイの山崎理事長は「地域の要望を基礎・応用研究などにしっかり反映する」と報道があり、ILC の関連には、多くの建設業、製造業、関連する研究機関、多くの人的、技術的貢献度や派生する研究・技術的成果が期待出来ます。

また、研究分野での研究成果は物理学会でも世界最先端の研究のため、多くの技術者や物理学者が福島県内、特に浪江町内に常駐するため、かなりの経済的効果も期待出来、ILC 建設には、県内の建設会社やインフラ関連の企業にも恩恵があると予想されます。

浪江で清算された水素を ILC の大電力に利用出来ると思われれます。津島地区においても、研究施設を整備する事でメリットが出ます。

これを、絶好のチャンスと考え、ご提案いたします。